

武蔵野市市民活動推進委員会

第1回委員会 議事要旨

日時：平成29年9月26日（火）午後2時から5時

場所：武蔵野市役所802会議室

1 開会

（1）委嘱状交付

一机上配布にて委嘱状交付

（2）市長挨拶

- ・武蔵野市市民活動推進委員会にご出席いただき、また、委嘱についてのご承諾いただき感謝申し上げます。
- ・現在、自治基本条例について市議会議員も参加しての懇談会を実施している。行政や議会、市民が連携しなければ目指す自治は前進しないという中で、市民という大きな力がこれからどう位置付けられるかということについても議論をしているところであり、その市民の力を活かすベースになるのが、この市民活動促進基本計画改定計画になるのではないかと考えている。
- ・武蔵野市では市民活動が活発に行われているが、そういった活動を体系的に整理し、市がどのように支援ができるかという部分も位置付けた計画になっており、その進捗状況について、委員の皆様を確認していただくという目的で委員会を設置している。改定計画の策定時から継続で委員となっていていただいている方も多くいらっしゃるので、策定時の状況も踏まえながらご議論いただきたい。

（3）委員自己紹介

■委員

- ・市役所7階の市民協働サロンを運営していた中間支援組織の理事をしていたため、計画の策定委員となった。
- ・独歩の森という武蔵野の雑木林を保全する緑ボランティア団体、武蔵野の森を育てる会という活動をしている。

- ・生涯学習論を専門に研究し、中でもコミュニティ活動やボランティア活動を通して市民がどういうふうになら高まり、その結果がまたボランティア活動にはね返っていくのか、学びと市民活動、ボランティア活動が相乗効果で発展するというイメージを持ちながら調査研究をしている。
- ・計画を策定して終わりということではなく、進捗管理をしながら、この計画が実行性のあるものとなるよう関わっていききたい。

■委員

- ・「NPO活動促進基本計画（平成19年度から23年度）」の策定に、委員として参加した。
- ・武蔵野市民社会福祉協議会の副会長という立場で参加している。これまでボランティアセンター武蔵野の運営委員長など、ボランティア活動等を通して市民活動を見てきたことを生かしたい。
- ・NPO法人への助成金交付事業の審査会委員を務めているが、活動のレベルが年々上がっているように感じる。そういった活動も含めて、市民活動が社会資本として広がりを見せていることを嬉しく思っている。
- ・この計画が絵に描いた餅にならないよう、見守りながらお手伝いをしていければと思っている。

■委員

- ・武蔵野プレイス青少年フロアの運営協議会委員として参加しており、ひまわりママというNPO法人に所属するとともに、青少協の活動もしている。
- ・武蔵野市に住み始めて30年になるが、知らない間に市民活動に参加していたという思いがあるので、計画の冊子を読むと、市民活動がどのようなものか改めて考えさせられる。
- ・市民活動がより身近なものになるようお手伝いをさせていただければと思っている。

■委員

- ・成蹊大学のボランティア支援センターの設立に関わってきた。成蹊大学は、武蔵野市と地域連携協定を結び様々な活動を行っている中で、学生が手助けをさせていただいている一方で、学生の成長の場ともさせていただいているという、非常に良い循環が生まれているのではないかと感じている。大学と地域を結ぶということで貢献できればと思う。

ている。

■委員

- ・副会長を務めているコミュニティ研究連絡会から参加している。
- ・コミセンで活動をしている中で、根底にある条例の考え方を踏まえているかという点を折に触れて周囲と話してきたが、目の前のことに追われて、なかなかその部分に立ち返るということが難しいと感じている。
- ・以前、市民活動促進基本計画の策定の際、市民活動に関する調査を行ったが、見えないところで活動している団体が多くあり、サポートするための仲間作りが十分ではないということだった。ただ団体を作れば良いということではなく、どのように育っていけるのかということが重要。市民活動のステージというものを考え、そのステージに応じた支援の体制を整える必要があるのではないか。

■委員

- ・東日本大震災の時にPTAの役員をやっており、震災の時のさまざまな問題への意識から地域活動に携わるようになった。防災やコミセン運営委員に参加する中で、どこでも同じ人が活動していると感じた。
- ・任意団体も立ち上げ、団体の枠にとらわれず、これまで市民活動に参加していなかったような若者や子育て世代、外国人、障害者と一緒に楽しむという目標のもと、様々なイベント等を行ってきた。
- ・行政も含めて、既存の組織がそれぞれ積極的に活動しているが、まだ、その間に壁があるように感じている。どのように連携していけるのかということをもなさんと考えていければと思っている。

■委員

- ・武蔵野プレイスの市民活動フロアを担当している。活動団体がどのようなサポートを必要としているのか、ひとつひとつ拾いながら活動を続けていきたい。

■委員

- ・改定計画の策定においては、これまで一体的に議論されることが少なかったコミュニテ

ィの動きについても積極的に議論いただき、改定計画という成果に結びついた。

- ・これからの地域コミュニティ検討委員会の提言を受けて、昨年度、コミュニティ未来塾を実施した。２月から３月にかけて第１期講座を行い、現在、１０月から始まる第２期講座の募集を行っている。
- ・改定計画をより良く進捗していくために、みなさまにご協力いただきたい。

（４）事務局紹介

－事務局の自己紹介

２ 議事

（１）正副委員長選出

－委員長に田中委員を互選で選出

－副委員長に竹内委員を委員長が指名

（２）委員会の運営について

－事務局より資料３について説明

（質疑なく委員により同意）

（３）委員会の目的とスケジュールについて

－事務局より資料４について説明

（質疑・意見交換）

■委員

- ・目的とスケジュールを見ると、評価が中心になっている。
- ・我々が評価するという形になるが、実際の活動者が評価する場合、評価が甘いという風に見られがちなので、各々の活動について厳しく評価をしなければならない。

■委員

- ・自主勉強会は、市外の活動の見学も行うのか。

■委員長

- ・改定計画の進捗管理や評価という部分が委員会の主な目的となっている。
- ・適切に評価する意味でも、市内で行われている活動の場へ出向き、実施状況を把握するということを想定している。

■副委員長

- ・自己点検・評価という意味合いもあると思う。
- ・適切に評価できるようになるための勉強会としても良いのかもしれない。

■委員

- ・良し悪しではなく、より良くなるためにどうしたら良いかという評価方法である必要があるのではないか。

（４）武蔵野市市民活動促進基本計画改定計画について

―事務局より資料５について説明

（５）改定計画の達成状況評価について

―事務局より資料６から８について説明

- ・重点施策の達成状況評価

１－１市民活動のきっかけづくり

（質疑・意見交換）

■委員

- ・きっかけづくりを求める人は、まず相談をするのではないかな。
- ・相談窓口がどこにあるのかわかりづらかったり、わかっていても入りづらかったりという部分もあるのではないかな。

■委員長

- ・市やボランティアセンター、プレイスへは、どのような相談が来ているか等、状況を教えていただきたい。

■事務局

- ・市へのコミセン関係の相談としては、コミセンの窓口をやりたい、部屋を借りたいといった相談がある。
- ・コミセンに馴染みがなかったり、構造上中の様子が見えなかったりといったことで入りづらさを感じる方もいるかもしれない。

■事務局

- ・ボランティアセンターでは、時間がある、もうすぐ定年を迎える等の理由で何かしたいという相談が増えている。
- ・したいことが明確でない場合は、好きなこと等を聞いた上で、活動の場や一緒に活動する団体、個人を紹介している。
- ・ボランティアセンターがそのようなことを行っていることは発信しているが、知らないという方は多いと感じている。
- ・こちらとしても、どこへ情報発信をすれば伝わっていくのか見えていない部分もある。

■事務局

- ・プレイスへの相談としては、活動紹介してほしいといったことや、活動団体を法人化した方が良いかといったものがある。
- ・ボランティアセンターや市民活動推進課と情報共有を行っているが、そういったものについては内部でも共有している。
- ・団体等がより相談しやすい状況をどのように作るかという部分は課題だと感じている。

■副委員長

- ・何かしたいと思ったときに、いきなり窓口に行くということは少ないのではないかな。
- ・ウェブページで情報収集した上で、その情報源が信頼できるものなのかを判断し、問合せをするか、オープンなイベントへ足を運んでみるという流れかと思う。
- ・自分が興味を持った団体や活動が危なくないかといったリスク管理の面で、相談先に専門家がいるということが重要。
- ・入口という点では、興味のある分野の団体や活動にどういったものがあるのか、検索しやすいということが重要かもしれない。

■委員

- ・どの機関でも、団体紹介の冊子等を置いているが、それを渡されてもどうしたらよいかわからない。ただ情報を提供するというのではなく、親身になって話を聞くということが重要ではないか。
- ・イベントにしても市民活動にしても、各機関からそれぞれ情報提供されているが、一元化されたものがないので、市から市民活動について網羅された情報を出せると良い。
- ・私の便利帳は、非常に便利なものだと思うので、しっかりお知らせすることが必要だと思う。

■委員

- ・市主催のイベントについては市ホームページへ掲載されているが、外郭団体等は各々のページで情報発信しており、また、膨大な量の情報になるため掲載しきれない部分はあるかと思う。
- ・民間の情報も含めたサイトの構築は、市として過去に取り組んでいたことはあったが、管理面の課題もあり、進めることが難しかった。
- ・中間支援組織として、情報を整理・発信できる団体があれば、情報提供も深まっていくと思う。

■委員

- ・中高生リーダー講習会はとても良い事業だが、この講習会を修了したあと、ステップアップ講習会等があるとより良いのかもしれない。ジャンボリーに参加すれば実践経験を積めるが、それ以外はあまりないように思う。

■委員長

- ・プレイスの青少年活動支援について教えていただきたい。

■委員

- ・プレイスの青少年活動フロアは、大人から何かを提示するのではなく、青少年から何をしたいか提案してもらうという形になっている。その実現についても、大人が一方的に実現に向けて動くということではなく、青少年と一緒に実現に向かっていくようになって

ている。

■委員

- ・相談に行っても無駄だと思われることは避けなければならない。
- ・コーディネーターと同様に、専門的なスキルを備えた相談員を置く必要があるのではないか。
- ・きっかけ作りが大事であり、入り口として相談を受ける相談窓口の相談員のスキルアップに取り組んでいかななくてはいけない。

■委員長

- ・相談機能の充実・PRや、情報の一元化というところが、各委員からの主な意見だったと思う。
- ・自分自身の活動で考えてみると、新たに入ってくる方のきっかけとしてはホームページや掲示板、学習会への参加、ボラセンからの紹介、プレイスでファイリングされた資料を見てというところが多いように感じる。
- ・魅力発信という点でも、プレイスの講座で団体の活動の魅力向上のための講座があっても良いのではないか。

2－4 市民活動に関する学びの機会の提供

(質疑・意見交換)

■委員

- ・地域課題は、地域全体の課題であるべきだが、目的別団体の課題になってしまう。目的別の課題に、地域・エリアを加えることで、より活動が地域に生かされてつながっていくのではないかな。

■委員長

- ・たとえば地域の共通課題に関する学習を積み重ねてきたコミセンもある。
- ・直接の課題ということではないが、地域の歴史の学習を進めてきたコミセンもある。少し広げて考えてみると、地域の歴史を学ぶことも、その地域の課題認識へとつながって

くるので、地域ごとの課題や歴史を学ぶ場というものと良いのかもしれない。

■委員

- ・昨年度、食と生活に関するアンケートを実施し、その結果を目的別の団体と共有した。
- ・地域課題を洗い出し、共有していくことが学びというところへ繋がってくるのではないかな。

■委員

- ・皆で課題を出して、情報を共有し、その解決に向けた講習会を原則全員が参加する形で実施している。

■委員

- ・多摩エリアのいろいろな市民活動の場へ行ったが、それぞれ特色があるので、他での事例を見るというのも学びとして有効だと思う。
- ・学びを実践する場やステップアップする場があると良い。学んだ後のステージをどう用意するかまで考えた学びが必要ではないかな。

■委員

- ・これまで学びの後のデザイン、場の提供がなかったのではないかな。
- ・その部分までイメージした上で学びの場を設定することも必要ではないかな。

■委員

- ・次の世代につないでいく担い手の育成も必要である。

■副委員長

- ・食と生活のアンケートの取組みの報告を他のコミセンへ向けて行う機会があったのか。

■委員

- ・数ある事業のひとつとしてコミュニティ研究連絡会にて報告を行ったが、特化しての報

告は行っていない。

- ・桜堤ケアハウスと共同で実施したもので、報告書はコミセンに置いている。

2-6 コーディネート機能の強化

(質疑・意見交換)

■委員

- ・プレイスの相談件数の減少について、広報活動が足りないということで済まされているように感じる。
- ・ただ窓口を設置しただけでは足りない。コーディネートできる人材を確保する等の仕掛けも併せて必要。

■委員長

- ・プレイスやボラセンが、現状としてどの程度コーディネート機能を発揮できているかというレベルと、地域の方のコーディネート機能をいかに高めていけるかというレベルの2つのレベルがあるかと思う。
- ・プレイスとボラセンのコーディネートの状況等についてお知らせいただきたい。

■委員

- ・団体への支援については、団体にアンケートを取ったり、他市の良い事例を参考にして取り組んでいる。
- ・プレイスだけですべて完結するものではなく、社協とも連携をしているところだが、コミュニティ協議会とも連携していければと考えている。

■事務局

- ・初めてボランティアに参加した人をコーディネートした場合には、職員が同行するとともに、活動終了後に、そのボランティアを続けられそうであるかについて活動者と話すなど、フォローも含めて丁寧に行っている。
- ・生活に密着した支援が増えてきており、他機関との連携を積極的に行っている。
- ・地域支援も行っているため、挙がってきたニーズを個人ボランティアで対応するだけで

なく、地域活動団体に地域課題として共有してもらい、地域で解決する方法を考えてもらうようにしている。

■委員

- ・コミセンに求められている機能だとも思うが、サロンのような集まれる場所があると、行けば何かしらの情報が得られるということもある。

■委員長

- ・地域福祉ファシリテーター養成講座、施設ボランティアコーディネーター研修、コミュニティ未来塾むさしの、プレイス・ボラセン・市の連携についてお知らせいただきたい。

■事務局

- ・受け入れ方によってボランティアが長続きするかに影響することもあるため、施設ボランティアコーディネーター研修については、受け入れる側の研修という位置付けとなっている。
- ・施設のコーディネーターは専任の方もいるが兼任の方が多いこともあり、一堂に会するという事は難しいのが現状。内容としては、上手に受け入れている施設の事例等を共有し、各施設で受け入れる際の参考にさせていただくというもの。
- ・地域福祉ファシリテーター養成講座は、地域の担い手作りの一環として実施しており、市民自らが地域課題を発見し、その解決に向けた活動を企画・実施していく人材を育成するもの。
- ・当初は、地域活動をする方のスキルアップというところが主だったが、近年は、これまで活動していなかった方の参加が増えている。
- ・修了者を地域活動においてどのように位置付けるかという点が明確になっていないという課題はある。

■委員

- ・コミュニティ未来塾むさしのについては、スタートしたばかりで、進め方を模索している部分はあるが、今年度行っている第2期の講座については、前回受講者が企画委員と

なり実施している。

- ・受講者された方の事例報告も行っており、活動を広げる動きにつながっている。
- ・三者の連携については、昨年度スタートしたもので、広報を連携して行うことで、市全体で進めているというイメージを上げていった。
- ・今年度の進め方については、事業の連携という選択肢も含めて検討しているところである。

・基本施策の達成状況評価

1 市民活動の裾野の拡大

（質疑・意見交換）

■委員

- ・興味のあることから市民活動へつながることが多いのではないかと。ボランティア等をやりたいと思ったときに、その気持ちをうまく吸い上げられるかというところが重要なのではないかと。

■委員

- ・防災組織の話だが、必要に迫られて各団体が集まり組織した。
- ・それぞれが防災のことを考えているが、集まって何かをしようとするとうまく機能しない。
- ・それぞれの団体をつなげることができれば、スムーズに動けて、新たに参加もしやすくなるのではないかと。

■委員

- ・計画策定に際して一定の政策レベルで区切ってはいるが、相互に関連している。
- ・きっかけづくりと相談体制のように、関連している部分を一体的に見ながら進捗管理をしていく必要があると改めて感じた。

■委員

- ・情報の提供方法が重要だと感じた。

- ・市全体のことは市から情報発信をすることになるかと思うが、個々の団体に情報をどのように提供していくか、サポートしていくかというところは改めて考えていきたい。

■委員

- ・市民活動を発展させていくにあたり、やらされ感が生まれないようにする必要があるのではないかと感じている。
- ・最初からテーマに囚われるのではなく、面白そうと思ってもらえることから始めて、そこに人が集まれば次の段階に移っていくという方法もあるのではないかと感じている。

■委員

- ・1つのテーマで様々な団体が集まったときに、まとめるための上部団体を作ってしまうとうまくいかないことが多い。
- ・横につながるネットワークという考え方ができるとうまく機能するのではないかと感じている。
- ・それぞれが独自に動いているという状況よりも、開かれたネットワークが裾野を広げる方向でつながっていくのではないかと感じている。

3 事務連絡

- ・第2回委員会 平成30年1月22日（月）開催
- ・勉強会については、プレイス、社協、市の事業を見学する方向で検討している。

4 閉会

以上